

トビウオを狙うカツオドリ



運が良ければクジラにも出会う



静沢の森遊歩道に残る戦跡



豪快なボートのお見送り

母島は、父島から南へ約50km、南北に細長く、山には亜熱帯の高木林が繁る緑濃い静かな島。地球上で母島でしか見られないメグロ(1977年に特別天然記念物に指定された小型の鳥)が生息し、1999年4月より、ダイビングも解禁された。父島二見港からは定期船ははじま丸で約2時間。

### 母島案内人

当日はスペシャルガイドが島を解説します！

### 母島1日目のみどころ

旧ヘリポート～都道最南端～静沢の森遊歩道～桑ノ木山～六本指地蔵ほか～東港探照灯下砲台～北村小学校跡～北港～東港～コース記念館見学を始め、欧米と交錯する史跡を見学

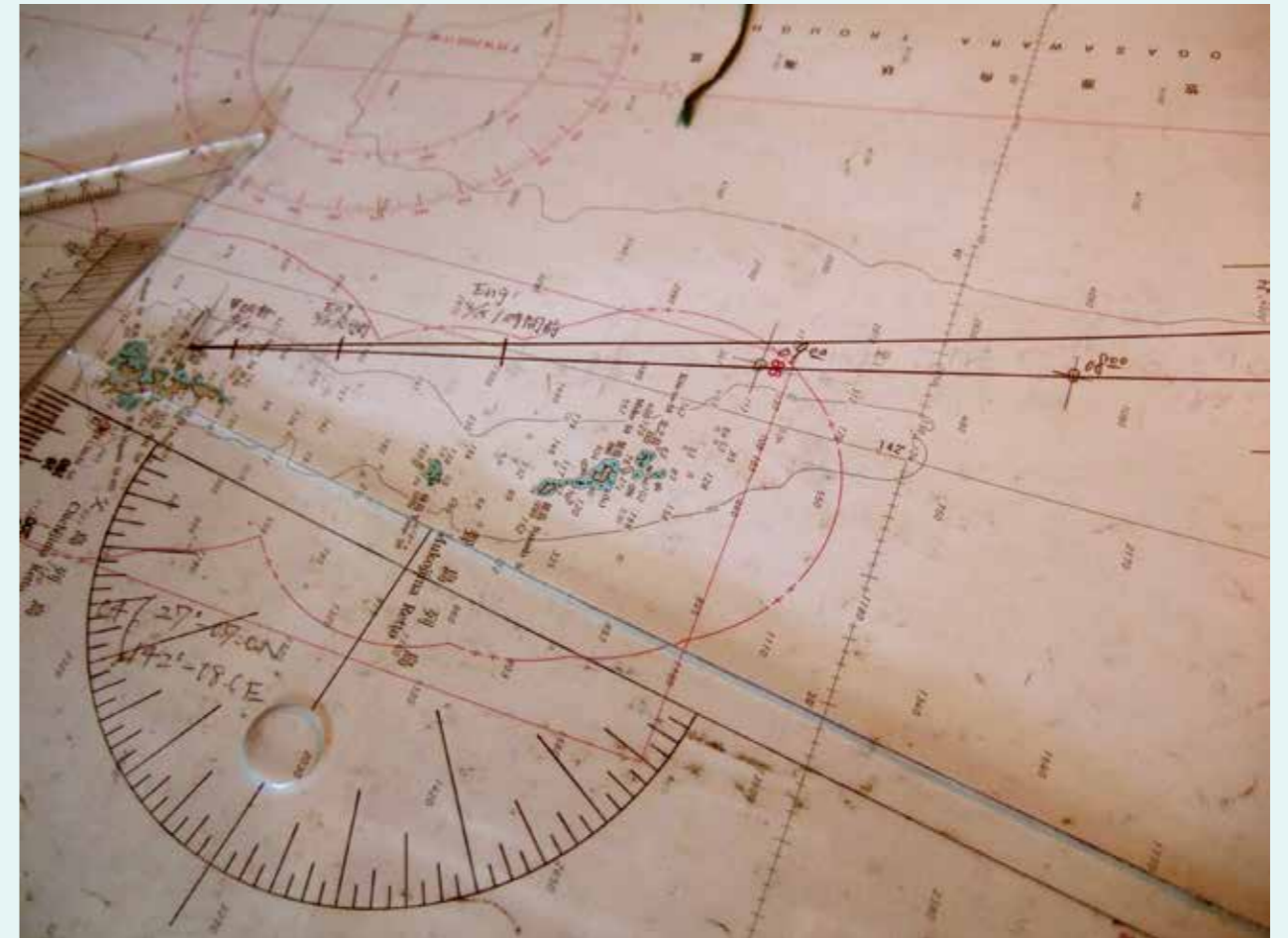
### 母島2日目のみどころ

午前中自由行動

母島発父島経由で東京へ向け出航(小笠原名物 地元ボートのお見送り)

# ボーダーリズム小笠原

日本本土、欧米、太平洋諸島の諸文化・歴史の交差点を巡る



2016年10月26日(水)～31日(月)

旅行主催：ビッグホリデー株式会社

< 企画立案 >

北海道大学スラフ・ユーラシア研究センター【境界研究ユニット】

NPO法人国境地域研究センター

< 協力 >

境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN)

小笠原村

特定非営利活動法人 国境地域研究センター 公式サイト <http://borderlands.or.jp/>  
境界地域研究ネットワーク JAPAN 公式サイト <http://src-hokudai-ac.jp/jibsn/>



## ■ボーダーツーリズムとは？

ボーダーツーリズムは、国境に接した境界地域を“砦”ではなく“交流拠点”と考え、境界地域ならではの体験を楽しもうという旅行スタイルです。国同士が陸続きに繋がり、目に見える国境が存在する大陸では一般的な旅行スタイルとして定着していますが、四方を海に囲まれたわが国では、これまで旅行商品化されることはほとんどありませんでした。境界地域であるということを観光魅力の一つと捉え、境界地域を「見る」「渡る」「比較する」ことで新たな魅力を生み出し、観光客の増加へと結びつけることで境界地域の地域振興を図ることを目的としています。

これまではNPO法人国境地域研究センター及び北海道大学、九州大学のボーダースタディーズ研究機関が企画立案し、旅行社が主催するかたちで、長崎県対馬と韓国・釜山、北海道稚内とロシア・サハリンなど国境を越え、双方の国境地域を体感するツーリズムとして発展してきました。昨年10月には道東オホーツクの旅として、国境を越えずにボーダーの歴史・文化・食などを楽しむ、新しいツアーも実施しました。

## ■大学と地方自治体の実社会連携

2013年、日本学術振興会の実社会対応プログラムに「国境観光：地域を創るボーダースタディーズ」が採択されたことにより、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・境界研究ユニット及び自治体と研究機関のネットワーク、境界地域研究ネットワークJAPAN(代表幹事：長谷川俊輔根室市長)の主導により、境界地域の自治体、大学の境界研究者、地域シンクタンクなどの共同研究によってボーダーツーリズムの研究やモニター調査が開始されました。成果刊行物としてブックレット『国境の島・対馬の観光を創る』『見えない壁』に阻まれて—根室と与那国でボーダーを考える』『稚内・北航路—サハリンへのゲートウェイ』(いずれも北海道大学出版会)も刊行されています。

## ■NPO法人 国境地域研究センターの参画

国境地域研究センターは、国境・境界地域に関わる研究者、ジャーナリスト、企業者、市民が中心となって2014年4月に設立されたNPOです。理事長は「ローカル・イニシアティブ」を掲げ、市民活動や地域の自立を主導してきた薮野祐三九州大学名誉教授が務め、理事には北海道大学、九州大学、中京大学などの研究者らに法務・財務などの専門家が加わっています。現在、会員は約100名で、団体会員としては稚内、根室、対馬などの地域企業、旅行社やキャリア、医療、報道関係なども加入しています。とくにまちおこしや地域振興の調査と提言、各種企画の実施に力を注いでいます。

## ■旅の水先案内人

竹芝から小笠原に向かう船上で、島のこと、日本の国境のこと、様々な話題を提供します。

古川浩司：中京大学教授、JIBSN副代表(代行)、NPO法人国境地域研究センター理事。日本の境界地域研究者で、離島や海の問題にも詳しい。著作に『日本の国境』(北大出版会、共著)、『朝鮮半島と東アジア』(岩波書店、共著)など。

## ■出発直前セミナー開催！

**2016年10月25日(火曜日)12時30分から(参加無料)**

JIBSN設立5周年記念・東京セミナー

## 「ボーダーで暮すこと：環境・観光・地域から問う」

基調講演「ボーダーランド・小笠原の暮らし」 森下一男(小笠原村長)

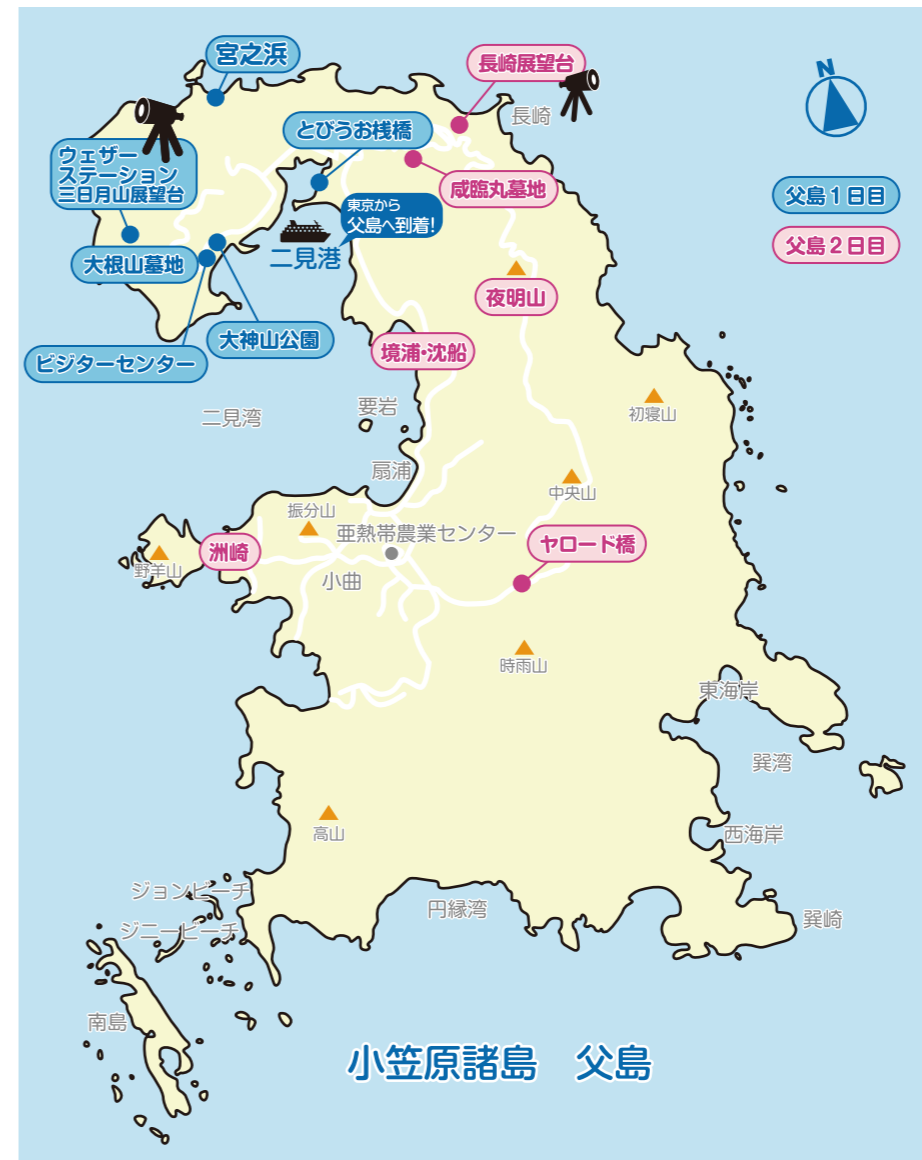
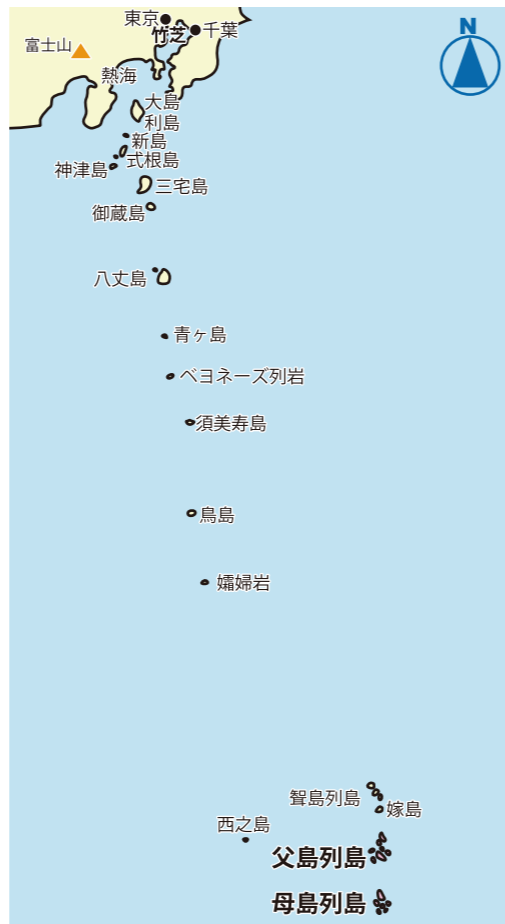
北は稚内、南は与那国までボーダーの暮らしの今をお届けします！

※終了後は懇親会も予定しています(実費)

会場：アジュール竹芝 〒105-0022 東京都港区海岸1-11-2

お問合せ：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター内 境界地域研究ネットワーク JAPAN事務局

E-mail: jibsn@slav.houkdai.ac.jp TEL: 011-706-2382 FAX: 011-706-4952



二見棧橋



長崎展望台からの眺め



東平アカガシラカラスバトサンクチュアリ



南島扇池

硫黄島に次いで、小笠原諸島で2番目に大きな島。一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島で、多くの固有種が存在する。島全体が小笠原国立公園に指定されている。

1920年代から陸海軍によって無線基地、砲台などの軍施設が建設され、太平洋戦争の頃には更に増強が進んだ。現在でも夜明山や衝立山などには軍施設・塹壕・砲台の跡、高射砲などの残骸が残っている。現在では、海上自衛隊の父島基地や宇宙航空研究開発機構(JAXA)の小笠原追跡基地などが設置されている。

## 父島案内人

### 延島冬生

1977年、内地から小笠原諸島に移住。自然・歴史・地名など関心をもち、島内きっての事情通。小笠原の歴史と現在を語ってくださいます。ブログに「小笠原諸島の外来植物」 (<http://boninintroplant.cocolog-nifty.com/blog/>)

### 大平レーンス

知る人ぞ知るバー「ヤンキータウン」のオーナー。欧米系島民のルーツや暮らしに関わる史跡を案内して下さいます。 (<http://yankeetown.net/>)

### ▶父島1日目のみどころ

ウェザーステーション～大根山墓地～宮之浜～大神山公園～水産センター～ビジターセンター～トビウオ棧橋 現地交流会 (小笠原村からの特別レクチャーです)

### ▶父島2日目のみどころ

咸臨丸墓地～長崎展望台～夜明山～ヤロード橋～洲崎～境浦・沈船、占領時代の史跡巡り 夕食 (ハートロックビレッジ)